

Eureka XII

六年制通信 No.23 令和6年10月18日(金)号

納得するまで考える

今年も何回か学校説明会を行ってきました。明後日も「入試説明会」を第2体育館で行います。事前登録によると嬉しいことに昨年よりも多い300名近い親子が来校される予定です。君たちの後輩になるかもしれない小学生たちですよ。説明会の冒頭でいつも私から25分程度お話をします。学校の役割とは何かとか教育について私が大切に考えていることなどを正直に話しています。コロナ禍を経て、私たちは改めて生徒諸君が学校に集う意味、つまり学校生活にはリモート授業だけでは得ることのできないことがあるということを知りました。このこともこの数年ずっと強調してきたことです。時代が変わっても、教育のツールが進歩(?)しても教育には普遍的な面があるということを、不易流行の不易の部分ですが、そこに大切な部分があるということ。コロナ禍は私たちに教えてくれました。しかし昨今、不易はないがしろにされ流行に焦点が当たりすぎてはいないでしょうか。それほど今の流行の波はこれまでに経験したことのないような大きなうねりとなって若者を包み込んでいるようです。

SNSの時代に生きるということはどういうことなのでしょう。それは情報過多の時代に身を置くということですよね。玉石混交の、しかも処理しきれないほどの多量な情報を浴びて若者は、ひょっとしたら大人も、常に気が散っている状態にあるのではないかと私は思います。そしてこれは本当によくない傾向だと危惧しています。君たち若者は集中して学ぶ訓練をしなければいけないのに、その大切な時期に気が散っているというのは、そして気が散っていることに気がついていないというのは現代の病の一つと言っていいでしょう。また、そのさまざまな情報は素人がいい加減に拡散したもので、多くの場合短文で、真偽の怪しいものが多く、さらにその情報にすぐ反応しないといけないかのような同調圧力が見られます。「いいね」かどうかの判断は感覚の反射です。これに慣れてしまうと、その先を考えようとしなくなるのではないかと、それが心配です。自分の言動が正しいかどうかよりもウケるかどうかが判断の指標となってしまうと、歪んだ承認欲求が一連の愚かな投稿へとつながり、笑われ軽蔑されていることも知らず、反省するだけでは収まらないくらい大きな代償を払うことになります。年齢を引き下げたからなのでしょう、成人なのに子どもっぽい言動が目立つように思います。飲食店で公共の物に口をつけて、それを投稿するといった行為、しかも批判を浴びると親同伴で謝罪に行くといった醜悪さも現代の病だと思います。こういう幼い精神を持った若者は、何の勉強もせず何の技術も修得せず、それでも自分を一人前に扱ってほしいという甘えた発想しかできないのでしょうか。

もともと日本人は流言飛語と同調圧力に弱いと言われています。特に「みんな〇〇している」というのに弱いですね。同調圧力に屈するということは考えることの放棄と同じです。確かに楽な一面はあると思います。考えなくていいということは、責任を負わないということですから。しかし、勉強するということは同調圧力を克服することなのです。流言飛語に惑わないということなのです。「知的な作業を通してしか本当の納得は得られない」、「考えて考えて納得したものは揺るがない」、これは私の私淑する先生の言葉です。そして、中途半端な勉強は最もたちの悪い小賢しい人間をつくるとも言っておられます。心したい言葉ですね。

私の若い頃と違って、現代の異常なまでに情報過多の時代を生きる君たちだからこそ、勉強と思考を通して同調圧力を克服しようと努力してください。勉強と思考に裏打ちされた自分だけの納得を得てください。それには意識して情報を遮断することです。そして孤独と静謐の時間を持ってください。孤独を恐れる気持ちが同調圧力に呑み込まれる要因になります。静謐は思考を深めてくれます。そして何より、いつも言うように、辛抱強く学ぶ意欲を養うことが大切です。物事がどの程度まで修得できるかは、かけた時間に比例するのが普通です。落ち着いて時間をかけるには辛抱強さが必要です。また、孤独は瞑想の時間を与えてくれます。目や耳からの刺激をなくし、思考を深める訓練をしてもらいたい。

今週のおすすめ

・朝井リョウ 他 『NHK 国際放送が選んだ日本の名作』 (双葉文庫)

副題が「一日 10 分のしあわせ」です。「…ごほうび」や「…ぜいたく」もあるとのこと。登場する作家は八名、朝井リョウ、石田衣良、小川洋子、角田光代、坂木司、重松清、東直子、宮下奈都のみなさんです。それぞれの短編集から選ばれた計十篇。こういう違う作者の作品を集めたものを「アンソロジー」と言います。「選集」ですかね、日本語では。坂木さんの短編集『短劇』は以前に紹介したかもしれませんが、「迷子」と「物件案内」が入っています。重松さんの『小学五年生』からは「バスに乗って」。何年も前に読んだはずがすっかり忘れていました。便利ですね、忘れるというのは。何度も楽しめるのですから。宮下奈都さんは読んだことのない作家でしたが、『羊と鋼の森』の作者というのは知っていました。映画にもなりましたからね。ただ私は読んでも観てもいません。今度手に取ってみようかな。今回収録された「アンデスの声」は、長編に仕上げてほしい作品だと思いました。いくつかの「？」が浮かんでくるので消化不良にしておくのはもったいないかと。

こういう短編集から気に入った作者に出会うというのはいいと思いますよ。朝井さんや小川さんの本は私も好きで読んでいますし、小川さんの『博士の愛した数式』は映画も大好きです。君たちもこういう本からきっと気に入る作者を見つけられると思いますよ。是非手に取ってみて下さい。「一日 10 分のごほうび」や「一日 10 分のぜいたく」も読んでみて、面白かったら、また紹介しますね。

BGM は Connie Francis の *Where The Boys Are* でした…。